等を考慮し，薬剤師が無菌的に調製することで安全・清潔を保つことができる．②看護師は朝から患者ケアに専念することができる．③薬剤整理が行われているため，薬を探し回る等の無駄がなくなった．④薬剤師が持参薬を確認することで医療安全の確実性が高まる．等の評価を得た．問題点としては，①事前に調製するため急な指示変更に対応できない．②オーダー時間が遅れた場合，ミキシング時間に間に合わない．等の意見があった．今後の課題としては，手術室，ICUにおける業務体制の確立，病棟常駐業務の休日対応等が考えられる．

おわりに

当院では，薬剤師が病棟で薬剤管理指導業務を手がけるようになって以来，さまざまな業務を展開してきたが，今回の薬剤師病棟常駐化，専門分野別の薬剤管理指導業務を行うことにより，当初の目標は達成しつつある．今後は，その内容・質をいかに高めていくかにある．薬剤師の仕事の根幹をなすものは，医療における安全の確保であり，患者安全の推進である．薬剤師が医療安全に貢献するためには，“薬のあるところに薬剤師あり”の理念の基，調剤過誤防止対策，服薬指導だけではない薬学的管理に基づく薬剤管理指導業務，徹底した病棟薬剤管理等，病院全体の中で医薬品に関する医療事故の減少・防止に努めなければならない．これからは，薬剤科の中の薬剤師としてではなく，病院の中の薬剤師として何ができるかが問われることとなる．薬剤科の外にも目を向け，病院全体を視野に入れて，他の医療職種の目に見える形で薬剤師の成すべきことを考える姿勢が，これからの薬剤師には重要である．これを実行に移すことが，「顔の見える薬剤師」といわれるための近道であり，「薬剤業務の更なる展開」の意図するところである．

今月の用語　隣に伝えたい新たな言葉と概念

【病棟常駐薬剤師】
【薬剤師病棟常駐システム】

英 **satellite pharmacy（pharmacist）・satellite pharmacist system**
（正式な用語はまだ確立されていない）

〈解　説〉 医薬品は院内のあらゆる場所で使用されている．医療事故，医療過誤の半数近くは医薬品に関係しているともいわれている．今までは中央集約的に調剤室・製剤室を中心に医薬品の取り揃え，供給を行っていたが，医療技術の高度化，複雑化にともない，薬剤師が病棟のナースステーションや手術室，救命病棟などに常駐し，医薬品の管理，注射薬のミキシングなどを行うことにより，医薬品の適正使用，リスクマネジメントなどに大いメリットがあり，期待されている．

しかし大きな問題として，人員の確保，人件費等の増大があるが，今まで看護師が行ってきた煩雑な医薬品管理を専門家である薬剤師が行うことにより看護部門の負担軽減が図れる．また期限切れ等の管理上の無駄を省くこともでき，さらにミキシング時における混合ミスや不適当な混合を避けることも可能となり不要な支出を抑え，医薬品に関係した医療事故，医療過誤の減少も経済効果に及ぼす影響は大きい．安全と経営の面からも意義のある薬局の形態といえる．

〈参　考〉 月間薬事2003. vol. 45. no. 1，2007. vol. 49. no. 7（じほう）
医薬ジャーナル2007. vol. 43. no. 1（医薬ジャーナル社）

（榛葉哲男）